



着々と進むハッピーロード大山商店街周辺再開発事業の今



地上 26F のクロスポイントの建設現場は、商店街のアーケードの間からいつもみえている

今週は本欄恒例・定点観測シリーズの一つ「ハッピーロード大山商店街・中心部再開発事業」(東京・板橋区)の現況をお届けします。

商店街を左右から挟み込むようにして建設中の2棟の多目的(住宅&店舗)高層ビル「大山クロスポイント」(高さ91m&95mのツインビル、いずれも地上26F地下1F)は、2024(令和6)年12月の竣工予定。併せて地上8Fの住宅&店舗の多目的ビル、地上3Fの商業ビルも同時進行で建設が進められつつあります。

さらに周辺には、これまでなかった300㎡超の防災公園を兼ねた広場も設けられるほか、商店街のほぼ中央部を幅員約20mの補助(都道)26号が横切る計画になっているなど、商店街周辺の様相はガラリと変わることが予測されます。

いろいろな意味で、歴史ある商店街が分断されるカタチにもなるため、実は今も賛否両論が飛び交う再開発になってしまっています。この写真を撮影した祝日(2月23日)にも、ハッピーロード大山商店街を守る会の人たちが、開発反対署名活動を実施していました。

もはや都内では数少ないアーケード商店街の雄として、地域の人々に愛されてきたハッピーロード大山商店街の「晴れの再開発」となるべきリニューアルが、賛否両論というのは哀しい事実ではあります。しかし、一方でこの再開発には、東武東上線の高架化工事という、長年にわたり地域住民の皆さんの宿願となってきた計画も今後、同時進行していくこととなります。

本誌としては先入観にとらわれることなく、この再開発事業の推移を今後も定点ウォッチしていく予定です。(未知草)